

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和3年度第3回 社会教育委員・公民館運営審議会委員 会議		
開催日時	令和4年3月17日（木） 13：30～15：15		
開催場所	近江八幡市文化会館 2階 会議室1		
出席者 会 長◎ 副会長○	<社会教育委員> ◎大橋委員 ○中江委員 楠亀委員 蒲生委員 松岡委員 久郷委員 吉井委員 中野委員 三木委員 高橋委員 <説明者・事務局> （説明者） 東生涯学習課長 （事務局） 伊丹生涯学習課参事 国本生涯学習課指導主事 清水生涯学習課主任主事		
次回開催予定日	令和4年6月～7月		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 清水 電話番号：0748-36-5533 Fax番号：0748-36-5565 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要 約	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局	1. 開会 (1) 挨拶
	楠亀委員が全国社会教育研究大会表彰を受けられたことについて報告。
委員長	委員長挨拶
事務局	会議出席者の報告 ↓ 議事交代(委員長による議事進行)
委員長	2. 報告・協議事項 (1)「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」(原案)に意見を求めることについて
事務局	「令和3年度近江八幡市教育行政基本方針並びに重点施策について」説明。
委員長	説明について、意見・質問を求める。
委員	第1章はよく検討されている。第2章の事業において、直近の課題として見た時に、グローバル化やSDGs(環境など)、少子高齢化、デジタル化、災害などに力を入れていかないといけないと考える。文化観光課でいろんな事業があがっており、趣味の学習が生涯学習として扱われてきたが、それだけでなく社会問題についても扱わないといけない。環境課がどれくらい関わっているのか。環境課の事業から見えてこない。災害について常に呼びかけるような社会教育が必要である。 社会教育委員としては、重点課題をまち協やコミセンに呼び掛けていくべきだと思うが、その前に市が声をあげる、問いかけていかないといけないのではないか。大きな取りこぼしがあるのではないかと思う。
事務局	防災に関する計画を盛り込んだ。危機管理課に依頼し防災講座を入れた。SDGsについてはこの計画に限らず全市で取り組んでいかないといけないと考える。
委員	事業目標は大きく書かれていて良いと思う。その中で、何を重点的にするのか、具体的なスケジュールを立てないといけないのではないか。市民として、なにが重点で、何を優先的にするのか見えにくい。SDGsについても17項目のうち何に力をいれるのか、分かりやすくなると思う。LINEで意見を求めるなど、市に対して意見が言える仕組みがつくられるとよいのではないか。
委員	今の状況は人を集めることが難しい。今後は、新しい方法や価値観が入っているとよいと思うが、原案には見られない。
委員	少子高齢化にともなう人材づくりが課題になる。高齢化によって後継者問題があがっている。学生もふくめて幅広く募集をかけていかないといけない。
委員	おやじ連には300人在籍する。3年前は、半分は後期高齢者だった。そこから3年たっているのもう少し増えている。集まってくる人は平均年齢70歳を超えている。除草作業一つとっても、できなくなっている。何か新しくできることを見つけていかないといけない。そのひとつに「やまのこ」のサポーターを考えている。元気な人が集まって元気に活動することが社会教育委員の活動の一つだと思う。
副委員長	老人会でも70才を越えている人が増えたり、役員などが億劫になり入らない人が増えている。最近はPTAも機能しなくなっている学校もあり、これからの地域のリ

	ーダーが育たない。コミセン、まち協の活動を市がどのようにカバーするのがはっきり見えない。子ども支援課の子育てサポーターの支援策が乏しい。たくさんのNPO ができているが、場所代などのサポートすることや、コミセンとつながる機会を持つなど、継続できる支援を考えていただきたい。
委員	おやじ連の活動も若い年代を入れないといけないのではないか。
委員	令和元年から若い年代の活動も始めている。
委員	高校、大学生を対象にした事業がないことが気になる。中央公民館がないことが謳われていないので、補足説明を入れていただきたい。各コミセンとの連携体制が見えにくい。
委員	インターネットを活用した生涯学習を考えていかないといけない。現代的な取組を考えていかないと、これからの時代の流れについていけなくなる。
委員	人と人とのつながりを大事にした事業展開が大切だと思う。事業を終えたあと、新聞や広報で市民に広く知らせることも考えてほしい。
委員	これからはネット社会になるので、個と個がそれぞれ考えたことを融合していくという進め方でもいいのではないか。
委員長	担当課が集まって検討したと思うが。そのプロセスが見えてこないで意見が出せない。検討会議の資料も見せていただきたい。実践的項目が書かれていないが、本来は目標値などが書かれていないといけない。計画がどのように見直されたのかが分からない。より具体的なものにしていただきたい。
委員	細かな事業報告があれば分かりやすい。
副委員長	学校メニューフェアで高校生、大学生の協力を集めてみてはどうか。
委員	今ある課題を具体的な取組につなげ、目標を定める。地域で活動されている団体に目を向けていく。現状把握が必要。より若い世代が心から入りたいと思えるよう提案をしていかないといけない。外の世界を知ること、自分の地元の素晴らしさに気づけると思う。
委員長	毎年内部調査されていると思うので、目標を定めているのではないかと。
委員	今までは、開催回数や参加者数が目標になっていたが、コロナ禍でもあり、違う指標が必要になるのではないかと。
委員長	(2) 令和3年度 生涯学習課の事業について
事務局	令和3年度の生涯学習課の事業成果について説明。
委員	このような報告形態で5年間の事業をまとめてくださると分かりやすい。
副委員長	教育委員会と行政の連携を強化していただきたい。縦系と横系を太くしてもらいたい。
委員長	委員と関係課の意見交換の場はあるとよい。
副委員長	以前、学区のまち協、社会教育委員、教育委員で懇談をしたことがある。

委員	この委員会も事務局から率直な意見が出ると議論が活性化すると思う。委員は行政の事情を分かったうえで発言するように考えないといけない。
委員長	3. 連絡事項
事務局	令和4年度の市社会教育委員会議関係事業報告・予定について資料に基づき連絡。 →意見なし
事務局	4. 閉会
副委員長	副委員長挨拶